

時代と対話する1時間

ワン・アワー

one hour

東洋経済新報社 × 現場のリアル
ブランドスタジオ

リスクリングは組織で行なうもの
自社の将来の事業方針を定め
必要な人材をリスクリングで
育成しよう

2022年度グッドデザイン賞

湿り気のあるものも入れられる
持ち歩きに便利なごみ入れ

ホルポ

株式会社キングジム



“ここで働きたい”と思われるチームに。

有限会社アドバンク(京都府京都市)

食品スーパーの新聞折り込み広告に特化して、デザイン・印刷事業を展開する有限会社アドバンク。独自のスマホアプリの開発など、先駆的な事業戦略で業績を上げる渡邊功社長にお話を伺いました。



「当社は京都・大阪を中心に、近畿圏のスーパーマーケットの新聞折り込み広告、いわゆるチラシに特化して事業展開している印刷会社です。価格競争が激しい印刷業界の中でも、特に厳しいとされる食品スーパーを専門にしている理由は明快です。そこが一番我々の強みを活かせるからです」

代表就任から約10年、渡邊社長はその強みの強化に努めてきました。

「当社のクライアントの多くは、地域に密着した小規模なスーパーです。遠方からの来客や一見客ではなく、ご近所や馴染みのお客さまを相手に商売されるお店にとって、何が重要なのか、何を優先すべきなのか。それらを反映した広告の在り方はどのようなものか。それは一般の方が思い浮かべる『華美な広告』とは別物です」

チラシは、利用者が居住地域の複数のスーパーのチラシを見比べながら「今日はこれが安いからこの店へ」などという使われ方がされるため、イメージより実用性が求められるのだといいます。

「私どもが優先するのは美しさよりも分かりやすさ、美しさよりもスピードです。極端な例を挙げれば『金曜の朝刊に入れるチラシの内容を、木曜の他店のチラシを見てから決めたい』という店長さんもおられますから、店舗側の原稿作成の手間をいかに省き、入稿から印刷、完成までの時間をいかに短縮するか。そこが同業他社との差別化につながります」

さらに、アドバンクには他社にはない「武器」があります。

「当社では、その店舗の全てのチラシを発注していただけるお客さまに、無償で『コラボ』というオリジナルのスマホアプリを提供しています。これは、端的にいうと『家族経営のお店でも大手流通チェーン並みのポイントサービスや情報発信、マーケティング分析ができるようになるアプリ』で、万人受けよりも、高齢者にも使いやすいことをコンセプトに開発しました。チェーン店でも店舗ごとにタイムセールや雨の日サービスなどの情報をプッシュ通知で送れますので、ギリギリまで『他店の情報を調べてから』と考えることになる店長さんがいる一方で、チラシはチラシでつくって置いて『最新情報はアプリから』と、情報発信の媒体として使い分けて考えられる店長さんもあります」

また、営業などで訪問した際には店内の汚れや接客態度など、気に

なった改善点を進言することもある

「我々の目的は、お客さまの商売の一助になること。チラシもアプリも、そのためのツールにすぎません。ですから、お客さまの売り上げや集客につながると思えることであれば、積極的にアドバイスもしますし、そのような小さな積み重ねがお客さまとの信頼関係に結びついているのだと思います」

ただ、近年、小規模のスーパーが大手チェーンストアに吸収されたり、廃業されたりするケースが増えているといいます。

「やはり後継者がいないという理由が目立ちますから、この傾向はより顕著になっていくと思います。それは当然、当社の売り上げに直結する問題です。この数年、私どもは営業エリアを拡大するとともに、中・大規模店の新規顧客開拓にも力を入れていきます。とはいえ従業員数25名、年商約5億円の当社の企業規模で、大手のお客さまに直接お取り引きしていただくことは容易ではありません。そこで考えた戦略が、長年注力してきた環境経営やBCP、SDGsへの取り組みをアピールすることでした」

実は、渡邊社長は「消費電力量を大幅に削減、ガス消費量をゼロに抑えらるる画期的な印刷システム」を開発するなど、環境配慮企業をキーワードに様々な施策に着手。省エネ

ルギーセンターが選考する2019年度の省エネ大賞(中小企業長官賞)も受賞しているのです。

「当社でチラシを印刷することでカーボンオフセット証明書を発行できます。ただ、それ以前に『小さくても、しっかりとった企業だ』と、価格以外の要素で評価していただき、採用していただけることが多いですね」

また18年から健康経営優良法人に、21年からは3年連続でプライト500に選ばれていることも、多くのステークホルダーからの高評価につながっているといいます。

「健康経営は、外部との関係性より、企業の継続性の問題から取り組むべきだと考えてきました。私は、従業員がしっかりと働いてくれる、働き続けたいと思ってくれる会社が生き残れる」と思うからです。それには、従業員が心身ともに健康であることが必須条件になりますから、従業員たちには「健康も能力の一つ、評価基準の一つになるのだよ」と伝えています。一方で、会社として様々な形で健康づくりをサポートし、健康でいようとする人の努力に報いなければいけません。私は過去に『人は独りでは生きられない』という現実を、痛いほど感じてきました。当社の仕事は、営業も制作も製造(印刷)も全てがチームプレイ。このチームが強くするためなら、私はどんな投資も惜しみません」

健康経営®に積極的に取り組み、健康経営優良法人(中小規模法人部門)に認定された企業さまにインタビューしました!



企業 DATA

所在地 京都府京都市南区吉祥院嶋野間詰町 52 番地
 代表者 代表取締役 渡邊功
 設立 1999年(昭和11年)
 事業内容 食品スーパー向けチラシの企画・制作・印刷、スーパー向けARアプリ開発・導入・販売
 Webサイト <http://adbank.co.jp/>



*カーボンオフセットとは、経済活動などで排出された二酸化炭素などの温室効果ガスについて、削減できない排出量の全部または一部を植林・森林保護・クリーンエネルギー事業(排出権購入)などでオフセット(埋め合わせ)すること。

大同生命は、健康経営に取り組む中小企業を応援します!

「健康経営に積極的に取り組んでいる企業をより一層支援したい」「健康経営にこれから取り組む企業に、始めるきっかけを作りたい」との想いから、大同生命独自の表彰制度「DAIDO KENCO AWARD」を昨年創設しました。第二回となる今年度は9月26日~12月22日まで応募を受付けています。ぜひご応募ください! こちらのWebサイトからご応募いただけます。 <https://kenco-support.jp>



特設サイト

昨年表彰された企業さまの取組事例を特設サイトに紹介していますので、ぜひご覧ください! こちらのWebサイトからご覧いただけます。 <https://daido-kenco-award.jp>

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。